

○事業所名	原田学園ことばの支援センター こまつばら（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	R7年12月22日		～	R8年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	R12年12月12日		～	R7年12月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	R8年1月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者評価では、支援内容・職員対応・環境面について肯定的な評価が多く、安心して利用できる体制が整っている。特に、職員の配置や支援の丁寧さ、生活空間の清潔さなどについて高い評価が得られており、日々の支援の中で基本的な支援品質が安定して提供できていることが強みである。	こどもの発達段階や特性に合わせて関わり方を調整し、安心できる関係づくりと見通しを持てる支援を心がけている。こどもが不安を感じやすい場面では手順や流れを分かりやすく提示し、環境設定や声かけの工夫を通して安心して過ごせるよう配慮している。	支援の振り返りや職員間共有を継続し、支援の方針を統一・質の向上を図る。日々の支援後の振り返りやケース共有を通して、こどもの理解や支援方法の共通認識を深める機会を確保する。
2	保護者との情報共有や相談対応が行いやすく、連携が取りやすい。療育時にこどもの様子や支援の意図を保護者に伝える機会が確保できており、家庭側の不安や困りごとを早期に把握しやすい体制となっている。	日々の様子や支援内容について丁寧に共有し、保護者の不安軽減につながる関わりを意識している。具体的には、成長がみられている部分を共有したり、家庭や園での困り事への対応を課題に取り入れたりすることでニーズや特性に合わせたプログラムを立てている。	家庭でも活かせる関わり方の情報提供を充実させ、家族支援をより強化する。保護者が家庭で取り組みやすい声かけ・関わり方・環境設定の工夫などを具体的に伝え、家庭と事業所が同じ方向性でこどもを支え、安心して子育てができるよう支援する。

3	<p>支援に対する満足度が高く、こどもが楽しく通える活動・支援が提供できている。こどもが「また行きたい」と思えるような活動内容や関わりを意識しており、成功体験や肯定的な関わりを通して、自己肯定感や意欲につながる支援を行うことができている。</p>	<p>こどもが成功体験を積めるよう、課題設定や活動内容を調整し、達成感を得られる支援を行っている。取り組む課題については、こどもにとって難しすぎず、少し頑張れば達成できる水準になるよう段階設定を工夫している。</p>	<p>活動プログラムの固定化を防ぎ、発達段階や興味関心に応じた多様な経験が積めるよう工夫する。活動の目的やねらいを明確にしなが、ガイドラインに基づき、幅広い経験が得られるよう計画する。</p>
---	---	--	--

	<p>事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>事業特性上、地域交流が難しいとの意見があった。所属園での生活を大切に、日々の活動や行事を優先して取り組みつつ、園や学校での様子を丁寧に聴きとり、必要に応じて地域交流の方法について等検討していく。</p>	<p>登録人数が多く、頻度や時間も個別に設定されているため、交流の機会自体が限られており、現状での実施は難しいと考えられる。所属園での行事を優先したり、集団療育時に所属園以外のこどもと交流を持っていたりするケースもある。</p>	<p>今後、地域交流を希望するご意見等があれば、園や地域資源との連携について実施可能な範囲で柔軟に検討していく。また地域交流の機会を急に増やすことが難しい場合でも、可能な活動から段階的に検討し、実施した内容を保護者に分かりやすく伝える。</p>
2	<p>保護者同士の交流機会について、少ないと感じる保護者が一定数いる。交流の必要性や参加ニーズには差がある一方で、「他の家庭と話せる機会が欲しい」「情報交換できる場があると安心する」と感じる保護者もいる。</p>	<p>交流の必要性の感じ方や参加可能な条件が家庭によって異なり、実施方法の調整が難しい。家庭によっては交流を強く望む一方、仕事やきょうだい対応などの事情で参加が難しい場合もある。</p>	<p>希望者が参加しやすい形（自由参加・短時間など）で、負担の少ない交流機会を検討する。保護者同士の交流については、全員参加型にこだわらず、希望者が気軽に参加できる形式を検討する。引き続き、集団療育では保護者同士のかわりの機会を大切にしていく。</p>
3	<p>家族支援（ペアレント・トレーニング等）について、ニーズはあるが十分に提供できていない。保護者の相談や助言は日常的に行っているが、プログラムとしての提供や、継続的な学びの機会の確保が十分とは言えない。</p>	<p>保護者の希望はあるものの、実施頻度や提供方法が限られている。家族支援プログラムについては、職員体制や運営上の時間確保、準備負担などの要因により、十分な頻度で提供できていない現状がある。</p>	<p>家庭で活かせる関わり方の情報提供や、相談機会の案内を充実させ、家族支援の強化を図る。保護者支援については、日常的な相談対応に加え、家庭で継続しやすい関わり方を具体的に伝える機会を増やす。</p>